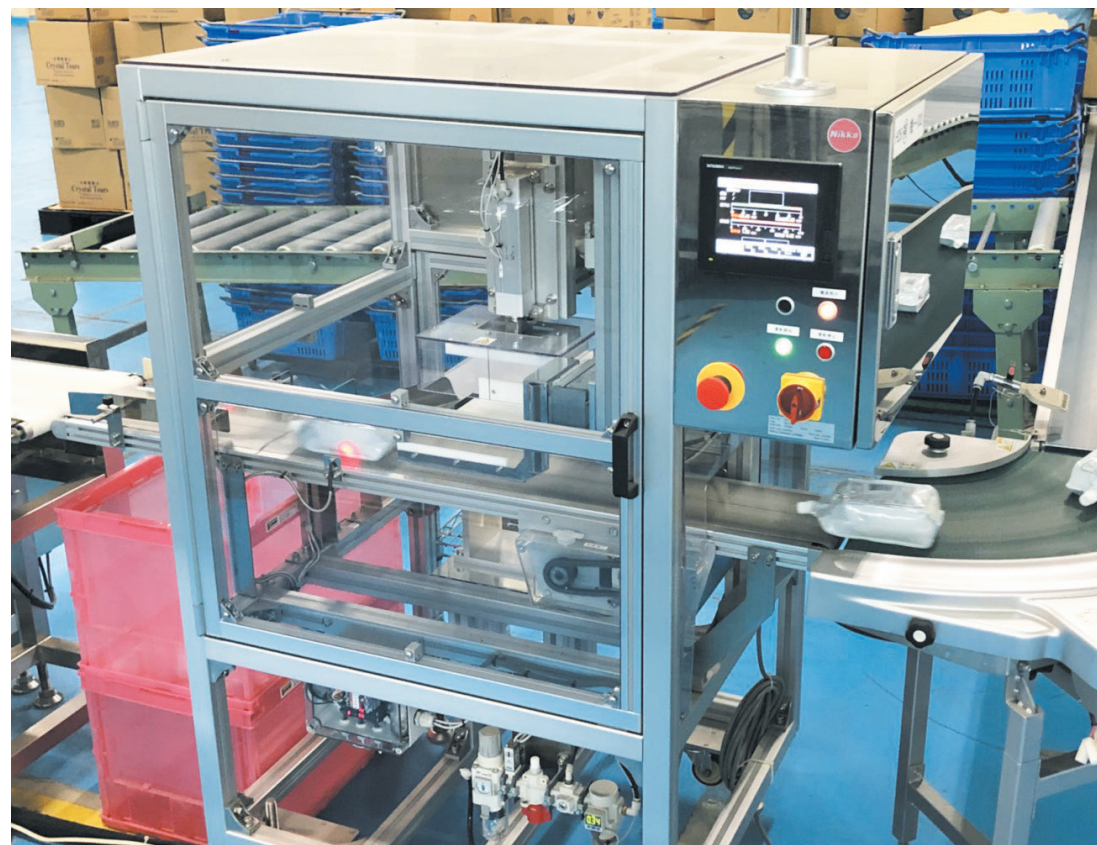


- 欠陥品の出回りリスクを防止
- チェック作業の省力化、効率化
- 取引先に安心・安全アピール

株式会社TED

製造業(水素水の製造販売)

平成26年度 ものづくり技術 設備投資
H26品質管理の強化で着実な受注を
水素水の海外展開も積極的に

導入した耐圧試験機

会社の概要

平成15年に当社前身の株式会社ティー・イー・ディーが創業した。バイオ燃料の研究、開発事業を展開する目的だったが、創業者が当時あまり一般に知られていなかった水素水に着目し、いち早く研究開発に乗り出した。

水素水とは、基本的には分子状の水素か水素イオンが、通常の水よりも多く含まれている水のことを指す。無味無臭で見た目も水と変わらない。平成19年に「水素分子の抗酸化作用に関する論文」が発表され、

水素水の身体への効能に関する研究が進み、健康・美容に敏感な層を中心に注目度が高まった。

高濃度の水素水を量産するため独自の加圧式製法を確立し、平成16年に特許を取得した。原料となる水は立山の伏流水を選び、特殊なフィルターに透過させて、マイクロバブルを加える。水素は空気中に抜けやすいが、水素濃度が長期間保たれるような容器も含めて工夫した。

平成18年から法人向け製造受託(OEM)を展開する一方、22年には自社直販商品「甦り水 RE水素水」も市場投入した。24年、吉田昭弘社

長がティー・イー・ディーの事業を受け継ぐため現在の株式会社TEDを設立。翌25年には、ネットショップを開設し、水素水のほか、水素を取り入れた入浴剤や化粧品を開発し販売している。

補助金事業の内容

平成25年頃、水素水がメディアで取り上げられたことをきっかけに、水素水ブームが起こった。店頭での取り扱いが広がり、水素水事業に関心を持つ企業が急増した。当社にも、水素水事業参入や健康に関するセミナーの講演、視察の依頼が多くなった。

ブームによる既存商品の増産や新規のOEMなどに対応していく中で、特に大企業からより高いレベルでの品質管理体制を求められるようになり、製造ラインのチェック体制を見直す必要性が出てきた。商品の品質や品質管理の面で信頼を得ていくことが着実な受注の取り込みや、競争力の強化につながると考え、平成26年度に補助金を申請し、異物混入チェックができる微小金属探知機と、容器の不具合を着実に発見できる耐圧試験機の、自動検査装置2機を導入した。レトルト食品の製造工程における検査体制を参考にしたほか、大手メーカー飲料水のOEMを数多く手掛けてきた地元企業からもアドバイスを受けた。



導入した微小金属探知機



工場内の様子

会社データ



創業 平成15年5月
設立 平成24年6月
代表 吉田 昭弘
所在地 富山市大場118
TEL/FAX TEL:076-420-7160 FAX:076-420-7161
U R L http://ted-suisosui.com/
資本金 300万円
従業員数 8人
取扱製品 清涼飲料水(水素水)

補助金事業の成果

微小金属探知機は、アルミ製パッケージに対応できること、殺菌や冷却という工程の関係で、容器が濡れている状態でもチェックできるものを採して設置した。製品の充填にはクリーンルームを備えているが、万一の異物混入があった際でも、高精度な探知機によって、確実に発見できる体制が整った。

耐圧試験機は製品に圧力をかけてパッケージの破れや不具合をチェックする。目視と手作業で検査していた時より、欠陥品をもれなく、かつ効率的に発見できるようになり、作業者の負担も軽減された。

品質管理に対する取り組みは、取引先への安心・安全アピール、メーカーとしての信頼度アップにつながった。新規取引では、他メーカーと比較された結果、品質面で当社が選ばれたケースもあった。

今後の展望

中国や韓国、インドなどアジアの企業に関心を持って、問い合わせや視察に来ることが増えている。輸出には添加物としての水素の取り扱いが各国で異なるなど課題はあるが、積極的に取り組んでいく。そのためにも、今後は水素濃度をより長く安定して保持できる技術と容器のバリア性向上を追求していく考えである。

国内市場における一大ブームは去ったが、一定のリピーターが残っていることや、ミネラルフリーに着目されてペット向け需要が伸びていることが支えになっている。現在、水素水は複数のトップアスリートに実験的に採用されており、疲労軽減や乳酸値上昇を抑えるなどの効果がみられるという。ポテンシャルは高いとみており、水素水の普及を図りながら、水素水製造技術を活用して幅広い用途を探っていく。



自社直販商品「甦り水 RE水素水」